




www.eco-music.jp



株式会社ナイスカンパニー エコミュージック事業部

03-3725-3355 FAX03-3725-3613

〒152-0031 東京都目黒区中根 1-2-2

日本発。地球に優しい、新しいモノづくりのカタチ。   



エコミュージックの始まりから現在

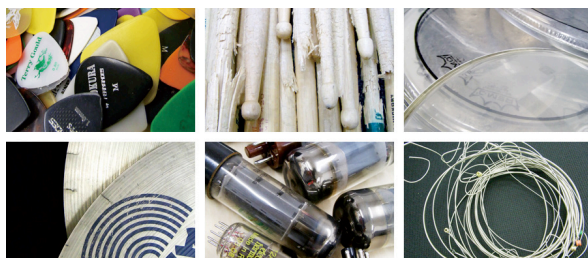
今や、たとえどんな小さな規模の企業でも、環境問題は人ごととして看過できません。エコミュージックの関連会社であるサウンドスタジオノア（音楽練習スタジオ）では、捨てるに忍びない楽器部品を多数廃棄していました。たとえば、激しく打ち続け折れたドラムのスティックは1カ月に4,000本、ひびの入ったシンバルは1カ月に150キログラム（約100個）など。新しい音楽が産まれるたびにこうして増え続ける廃棄物のリサイクルにとりくむべく、エコミュージックを立ち上げました。

こうして、使用済みの楽器類を再利用することで、ただ、再利用するだけでなく、音楽活動を通して、環境への関心を広める狙いもあります。また、ミュージシャン自身も使い捨てにすることの後ろめたさから開放され、心おきなく音を奏でることができます。

音楽活動にエコロジー、これが当社の理念です。

日本初、使用済み楽器部品を再利用

音楽活動における廃棄物としては、折れたドラムスティック、磨耗したピック、切れた弦、割れたシンバル、寿命の尽きた真空管、金属パーツや、電子部品など数多く挙げられますが、どれも捨てる際に「もったいない」と考えずにいられないものばかり



りです。エコミュージックでは、新しい音が生まれるたびに増えていくこれらの廃棄物のリサイクルに取り組みばどんな結果が出せるかを考えています。

最初の取り組みとして「耐久性に優れたピック」エコピックを完成させました。磨耗が少なく、寿命の長いピックならば交換の頻度も少なくなり、ゴミが減る結果につながると考えております。そのうえ、廃ペットボトルを素材にしているので資源のリサイクルも実現させました。

現在では先に挙げたような廃棄物を使ってできることを、模索しています。まだカタチにはなっていませんが、様々な発想をもとにいくつかの試みが行われています。私達の試みが多くのミュージシャンに伝わり、新しいモノづくりを実現させていければと考えています。

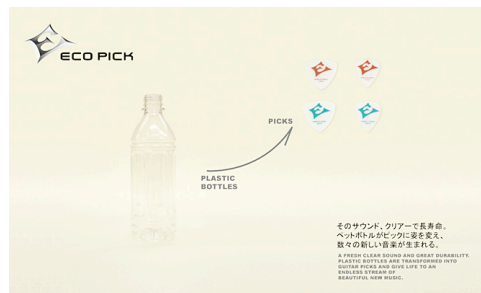
エコミュージックの特徴

- 1) 楽器部品の再利用は、楽器メーカーの取り組みはみられず、実施しているのは唯一エコミュージックだけです。
- 2) 再利用することでサウンドスタジオノアは、産業廃棄物を減らすことができ、廃棄費用の削減につながります。
- 3) 全ての製品が、日本国内の工場で加工されるため、輸送における無駄なCO₂を排出しません。
- 4) 製品は、作る行程が職人による技術の結晶であり、他社ではマネのできない唯一無二のものです。

エコミュージックの製品

1) エコピック eco pick

ギタリストが常に消耗し続けるのがピックです。ライブやリハーサルなど、弾きつづけるほどピックは磨耗します。弾き方によっては1回のライブで何度もピックを交換する方もいるでしょう。もしプレイヤーのために耐久性の強い、磨耗の少ないピックを作ることができれば廃棄物になってしまうピックを減らすことができるのではないかと考えました。様々な素材を検討した結果、ペットボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）に注目し



ました。素材を PET にすれば回収したペットボトルからピックを作りだすことが可能になり、PET の再資源化を実現することになります。しかし、ピックの重要な使命は「いい音」を出すことにあります。開発の段階で数々のミュージシャン、アーティストに多くの意見を求めました。そして、いま。ペットボトルから生まれた、クリアーな音色と耐久性に優れた新しいピック、「エコピック」が完成しました。そのサウンド、クリアーで長寿命。ペットボトルがピックに姿を変え、数々の新しい音楽が生まれる。

単価（税込み）：1枚 105円：6枚入り 578円：12枚入り 1,050円：36枚入り 2,730円

2) スティックペン stick pen 単価（税込み）：1本 2,520円

3) ミニスティックキーホルダー MINI stick keyholder 単価（税込み）：840円

4) DS タッチペン DS touch pen 単価（税込み）：420円

ドラマーがライブやリハーサルなどで使用、消耗し、折れたり、削れるなどして廃棄物となった大量のスティック。これらを廃材として再利用することで、スティックペンやミニスティックキーホルダーが誕生します。ドラムスティックは木材という性質上、折れ方、削れ方は様々です。ドラマーの人数だけ折れ方があるといっても言い過ぎではありません。この一見ただけではただの「折れた木」でしかないスティックを、北海道在住の木工デザイナーが1本1本削り出し、これらを作ります。



5) シンバルアクセサリー cymbal accessorie

-ドラムシンバルが再生、新しいジュエリーの誕生。-

音楽活動によって生じる消耗品、廃棄品の中で一番やっかいな存在がドラムシンバル。基本的にはシンバルの割れや中心の穴が磨耗して広がってしまうことで使用不能になってしまいます。割れた部分を加工して再利用もできますが、音色は変化し、寿命もたかが知れています。一時的に再利用できても最終的には捨てられる運命にあります。平均的なリハーサルスタジオでは廃棄シンバルが年間何百kg、多ければ1t以上、溜まります。この何百kgというシンバルは使用不能になれば場所をとり、ただ重いだけの存在です。何百kgという金属が再生されず



にただ捨てられるのを待っているのです。そこで、シンバルの原材料である金属を再資源化して使用できないかと考えました。これが新しいモノづくりのスタートとなりました。金属製品でよく考えてしまいがちなのが「融かして同じものを作ればいい」という発想です。これがシンバルには通用しません。ドラマーならよくご存知と思いますが、シンバルの表面には手垢や皮脂などが付着しやすく、青錆が発生します。これらの汚れが不純物となり、一度融かして再生シンバルを作っても音色や耐久性に深刻な影響が出ます。つまり、シンバルとしては使えないのです。では、どういうものならカタチにできるのか。いくつかのアイデアの中に、ジュエリー、アクセサリとして再生させるという案がありました。私達はこのアイデアを実現させるべく挑戦を始めました。ところが、シンバルは銅、錫、銀を主原料としているため、通常ジュエリーに使用される金属と比べるとかなり成型加工が難しいことがわかりました。

この挑戦に全面的に技術協力してくれたのが新潟の貴金属の加工・鑄造を生業とする、[三雄工芸](#)でした。原材料を融かし、成型加工して研磨するという基本的な工程は変わらないのですが、不良品が出やすく、納得のいくものはなかなか完成しませんでした。試行錯誤は長期にわたりました。しかし三雄工芸の知識と経験に裏打ちされた努力が、遂にシンバルを再資源化した成型加工を可能にしました。また研磨技術によってまるで金のような輝きを出すことにも成功しました。今まで捨てるしかなかったシンバルが再生し、新しいジュエリーが誕生したのです。

6) エルボースティック elbow stick

多くの標準的なドラムスティックは海外で生産されていますが、エコ・ミュージックでは海外からの輸送に伴うCO2の排出の削減のため、国産のスティックを作りました。全ての工程を国内で行う国産製品です。『大きい音を出せる』というコンセプトを重視。多くのミュージシャンに試作品を試奏して頂

き、仕様を決定しました。素材は芯のある音が鳴り、軽くて強度に優れているヒッコリーを採用しました。最も標準的なのでプレイヤー、ジャンルを選びません。

サイズは2種類。周囲14.5mm、長さ400mmの「NASU」。標準的なスティックより少しだけ長い周囲14mm、長さ410mmの「ROUGE」。どちらも初心者からプロユースにも耐えうるスティックです。チップの形状は「マル型」を採用。ヘッドに接触する面積が少ないので明るい音色が得られ、手元の繊細なアプローチにもしっかりと反応します。

スティック表面にはメキシコのルチャ・ドール(=プロレスラー)の、マスクをモチーフにしたエンブレムをプリント。四角いジャングルで戦うルチャ・ドールのような情熱的なプレイを可能に!(する、かもしれません)。

エルボースティック、メイド・イン・ジャパン

